



# 十文字西 公民館だより

■令和4年度-2号  
令和4年 5月 1日発行  
〒019-0513  
十文字町植田字一ト市330  
☎ 44-3100 FAX 44-5243



## 「農耕文化を顧みる 西地区交流センター」

十文字西地区交流センター長  
(兼) 公民館長 近 孝夫

十文字西地区の皆様お元気ですか。

皐月（5月）を迎えてもロシア・ウクライナ戦争が延々と続き、世界の平和が怪しくなりそれに伴い物価高、加えて、新しく変異したコロナウイルスへの危機感等、まだまだ不安な日々が継続しております。世界の人々は、「平和で安心」な生活を早く取り戻したいと強く願っていると思われまます。

今回は、日本の農耕文化特有の皐月について、その「由来・語源」を調べたら、いろいろな説があり、月ごとの農作業に関することが多くありました。また、田植えの月という意味の早苗月（さなえづき）が略されて皐月（さつき）になった説や、早苗の「さ」自体に田植えの意味があるため「さつき」になったという説もあるようです。

次に皐月の別名や異称で表わされる様々な呼び名があり、主なものは次のとおりです。

- 仲夏（ちゅうか）... 陰暦で4月から6月が「夏」になります。このため5月である「皐月」が真ん中の月になるため「仲夏」とも呼ばれています。
- 月不見月（つきみずつき）... 皐月の頃は現在の梅雨時期と重なります。五月雨のため月を見ることができないことから「月不見月」と呼ばれています。
- 稲苗月（いななえづき）... 皐月の語源、意味となった田植えに関する別名・異称として「稲苗月」という呼び方もあります。



### ～ 偉人の言葉に学ぼう ～ 「心に響く論語」より

#### ◆人の美点を認め合うこと

**「子曰く、君子は人の美を成す。人の悪を成さず。小人は是に反す。」**

君子は人の美点を伸ばしてやり、悪い点は出さぬようにしてやるものだ。小人はその反対だ。

#### ◆調和するか、雷同するか

**「子曰く、君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」**

人格者は他人と調和するが雷同しない。凡人は雷同するが調和はしない。

孔子が尊重したいことのひとつが「和」です。徳の道を歩むものは人との調和を求めるが、雷同しない。 ※雷同とは、自分の考えを持たず、むやみに同調すること。





# 令和4年度十文字西地区交流センター事業



開催日	事業名	担当班	内容
5月～3月	●ふれあいサロン (訪問公民館)	文化教養	・自治会館等に訪問し、地区の関係団体等と連携して事業を開催すると共に、地域住民と交流し地域の話題や要望等、生の声を聞く。
5月25日(水)	●健康スポーツフェス	健康福祉	・チャレンジデーを活用し、生涯現役で活動できる気力と体力を維持するためウォーキングや各種スポーツ等で健康増進を図る。
6月26日(日)	●安心安全教室① ・交通安全教室 ・県警音楽隊の演奏会	安心安全	・地域の安心安全な生活を維持するため、小、中学校と連携し交通安全について学ぶ。 ●講師 横手警察署、県警音楽隊
未定	●ふるさと歴史探訪	文化教養	・地域の史跡や市内外の文化施設等の見学。 ※十文字地方史研究会との共催。
未定	●地区民大運動会	全 班	・保育園、小・中学校等と連携し、町内対抗競技とレクリエーション、お楽しみ抽選会も盛り込んだ内容で実施。
9月4日(日)	●安心安全教室② ・防災講座「コロナ禍での 家族防災」(仮称)	安心安全	・地域の安心安全な生活を維持するため、小、中学校と連携し防災について学ぶ。 ●講師 日赤秋田短大講師 及川真一氏
通年(日)	●教養講座 ・各種研修・講座 ・全国ごてんまりコンクール 出品・見学等	文化教養	・年代や性別問わず学べる講座や研修を開催。 ・3世代連携で「地域の宝探し」等。
10月16日(日)	●交流センターまつり	全 班	・保育園、小学校、地域住民の芸能発表や創作活動展、物産販売等を実施する。
12月4日(日)	●十文字 バスケットボール フェスティバル	健康福祉	・町内スポーツ少年団、中学生、一般参加者が赤・白チームに分かれて対戦する。終了後に地域の元気を願い花火を上げる。 ※市バスケットボール協会十文字支部と共催。
1月15日(日)	●どんど焼き	全 班	・小正月の伝統行事どんど焼き(神事含む)等を行い無病息災・家内安全等地域の幸せを願う。
未定	●先進地視察研修	全 班	・より良い地域づくりや生涯学習の学びのために、研修を通じてレベルアップを図る。

～ 以上、各事業の詳細については決まり次第チラシ等でお知らせします ～

開催期間	内 容	担当	備 考
通年 毎週月・木 9時～17時	十西スポーツ交流センター の開放	事務局	・地域住民の健康増進と交流促進のため。 ※週1回程度の活動(地域に公募)
12月～3月 9時～17時	公民館(研修室)の開放		・地域住民の生涯学習や地域づくりに関わる自主的な学びやサークル活動のため。 ※週1回程度の活動(地域に公募)
通年	手作り作品展 (西地区館1階ロビー)		・手芸や陶芸、十文字和紙作品展等の展示。
7月～8月 12月～1月	子ども教室 (夏季10日間・冬季5日間)		※生涯学習課主催事業



お知らせ

# ～ なつかしい故郷の情景 ～ 「故 梶原徳行さん絵画展」 開催中！

「地域の宝びと・もの」にふれましょう！

十文字西地区交流センター運営協議会  
副会長 松野 利喜男

世には、地元地域で生まれ誇れる「ひと・もの」に気付かず通り過ぎていくことが間々あると思います。その一人に、十文字町睦合荊島出身で、今は亡き梶原徳行（かじわらのりゆき）さんと絵があります。その作品展がたがいま西地区館1階ロビーにて開催中です。

昨年の暮れ、雄物川町・桑の木の播磨貞治さん（木工作品作家）から「俺の同級生にアマチュア画家がいる。カラーコピーした作品集があるので見て欲しい」と話を持ちかけられ拝見したところ、その作品の素晴らしさに心打たれる思いに浸りました。

「できれば徳行の絵を多くの人目に触れる場に展示し、みんなに見てもらい当時を懐かしみ広めて欲しい」と奥さんの良子さんともども熱気をこめて語るのです。そこで十文字西公民館長に話を持ちかけたところ、「交流センター事業として取り組みたい」との返事で、同運営協議会に諮りこの度の展示の運びとなったものです。

絵は21枚で、四季折々の農作業風景、行事、生活、遊びなど目が釘付けとなるほどの傑作が次々と続きます。この時代を体験してきた中高年層はもちろん、その当時を知らない若者や子どもさん達にも家族・友達の語らいの場、歴史の学び場とも言えます。また、梶原さんの心情を綴った手紙風の文章も展示してありますので、この機会に是非ご覧になっていただきたいと思います。

荊島の徳行さんの生家には弟の行雄さん（75歳）が住んでおり「兄は学校を卒業した後横浜に就職し、5年前82歳で亡くなった。盆・正月、同級会などには帰って来ていたが、子供のころ絵に関心がある姿は思い出せない。横浜に行ってから趣味で始め、特に故郷の思い出が忘れられず、その思いを絵にしたためたのだろう。」と語ってくれました。

地元荊島会館には、約30年前からその絵と「四季の故郷」と題した手紙文が掲示されていました。



【故 梶原 徳行さん】



●会場 西地区館 1階ロビー  
●期間 令和4年 5月末日まで

●5月と言えば... 田植え、端午の節句、ゴールデンウィーク、母の日...と様々な風物詩がありますね。和気あいあいと身近に交流していた頃が懐かしく感じられます。当り前になったコロナウイルス感染予防ですが、相手との距離があっても、マスク姿でも、ニッコリ笑顔で心と心の触れ合いを心がけたいものです。（^-^）（事務局）

